

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

11-246348

(11) Publication number :

14.09.1999

(43) Date of publication of application :

(51) Int.Cl.

A61K 7/02

A61K 7/00

A61K 7/50

(21) Application number : 10-071322

(71) Applicant : SHISEIDO CO LTD

(22) Date of filing : 05.03.1998

(72) Inventor : ADACHI KENTARO

NODA AKIRA

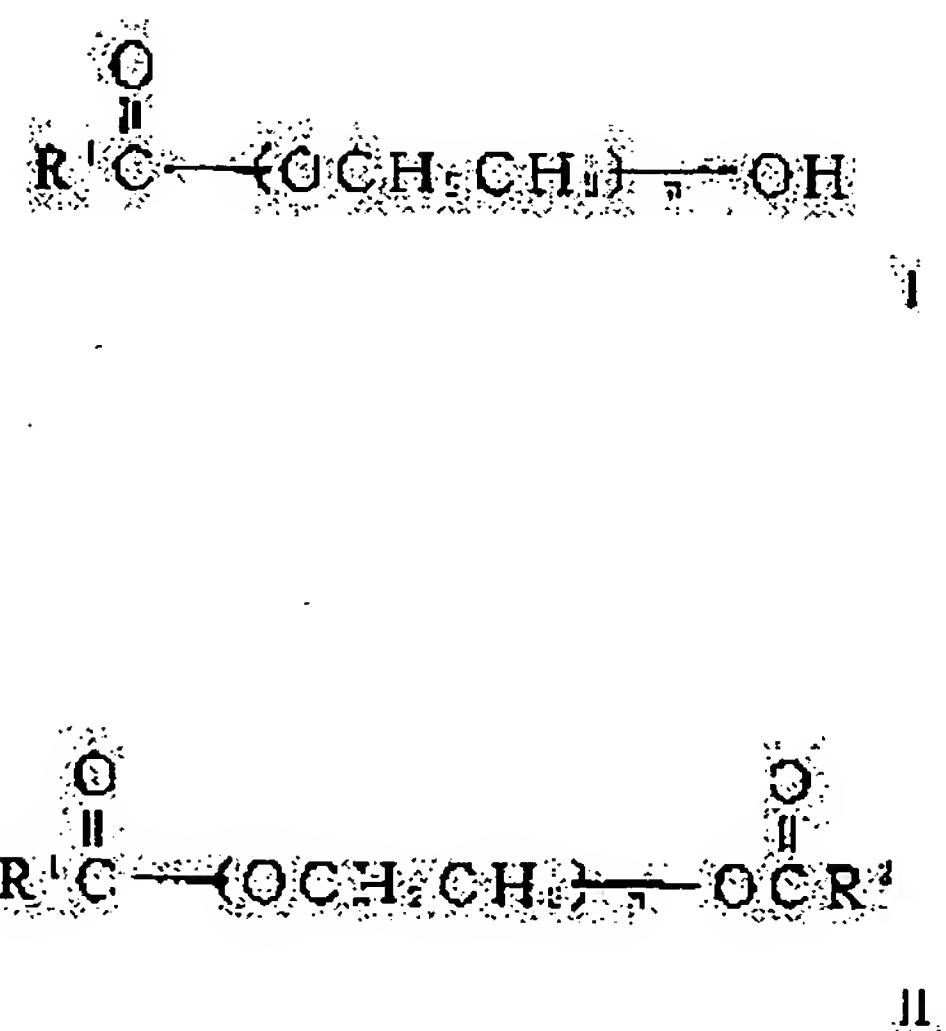
(54) FACIAL CLEANSING AGENT COMPOSITION

(57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain the subject composition capable of carrying out removal of makeup cosmetic and skin washing in one step and satisfying cleansing effect and feeling to users by combining a specific active agent with a specific oil in a specific amount.

SOLUTION: This composition is obtained by formulating (A) 5.0-20.0 wt.% of polyethylene glycol monoester and/ or polyethylene glycol diester of formula I or formula II [R1 and R2 are each isostearoyl or oleoyl; (n) is an integer of 6-16] with (B) 2.0-15.0 wt.% liquid oil (preferably silicone oil and hydrocarbon oil). The composition is a water-oil-based emulsion

system and has oil-cleansing effect of make up cosmetic, etc., and enables washing away with water and has good makeup removal and make up compatibility and can be expected as a facial cleansing agent excellent in smoothness and refreshing feeling after using.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 20.11.2002

[Date of sending the examiner's decision of 27.04.2004
rejection]

[Kind of final disposal of application other
than the examiner's decision of rejection or
application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against
examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Summarized English translation of JP Patent Publication (Kokai) No.11-246348 A

(reference C)

Table 1 (An example of a composition)

| | |
|----------------------------------|---------|
| Polyethyleneglycol diisostearate | 7.0 |
| Dimethyl polysiloxane | 5.0 |
| Liquid paraffin | 2.0 |
| Squalane | 2.0 |
| Polyethyleneglycol 1500 | 2.0 |
| Glycerin | 3.0 |
| 1,3-butylene glycol | 5.0 |
| Xanthangum | 0.5 |
| Methylcellulose | 2.0 |
| Purified Water | balance |

Table 2 (An example of a composition)

| | |
|-------------------------------|---------|
| Polyethyleneglycol monooleate | 10.0 |
| Dimethyl polysiloxane | 3.0 |
| Squalane | 2.0 |
| Polyethyleneglycol 1500 | 2.0 |
| Glycerin | 3.0 |
| 1,3-butylene glycol | 5.0 |
| Xanthangum | 0.5 |
| Methylcellulose | 2.0 |
| Purified Water | balance |

Example 9 (An example of a composition)

| | |
|---|--------------------|
| Polyethyleneglycol diisostearate | 7.0 |
| Dimethyl siloxane-methyl (Polyoxyethylene 60) siloxane copolymer | 4.0 |
| Dimethyl polysiloxane | 5.0 |
| Liquid paraffin | 2.0 |
| Glycerin | 20.0 |
| Carboxy vinyl polymer | 0.4 |
| Xanthangum | 0.2 |
| Antiseptic | appropriate amount |
| Fragrance | appropriate amount |
| Purified Water | balance |

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-246348

(43)公開日 平成11年(1999)9月14日

(51)Int.Cl.⁶A 61 K 7/02
7/00
7/50

識別記号

F I

A 61 K 7/02
7/00
7/50A
J

審査請求 未請求 請求項の数2 FD (全6頁)

(21)出願番号

特願平10-71322

(22)出願日

平成10年(1998)3月5日

(71)出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72)発明者 安達 謙太郎

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72)発明者 野田 章

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂第一リサーチセンター内

(74)代理人 弁理士 館野 千恵子

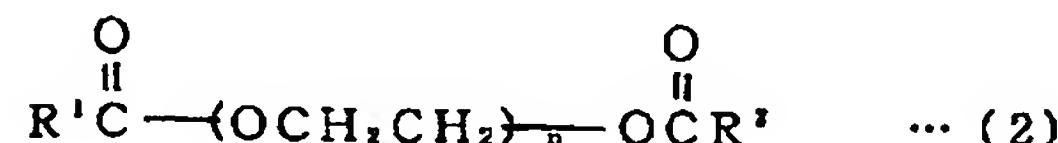
(54)【発明の名称】 洗顔料組成物

(57)【要約】

【課題】 一段階でハードメイクアップ化粧料の除去と、皮脂や汚れをすっきり落とせる素肌洗いとを行うことができ、メーク落ち、メークなじみや使用後の肌のなめらかさ等の使用感にも優れた2相系の洗顔料組成物を提供する。

【解決手段】 下記一般式(1)または(2)：

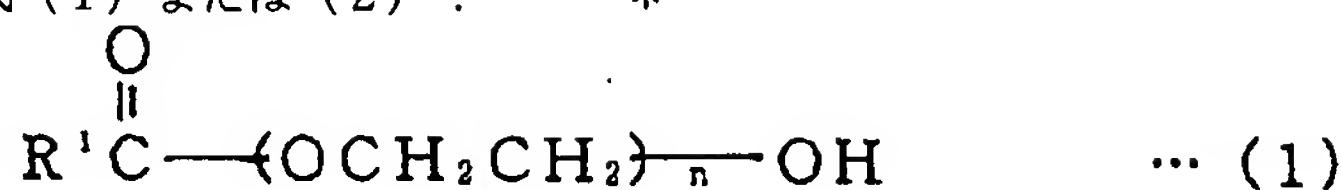
【化1】



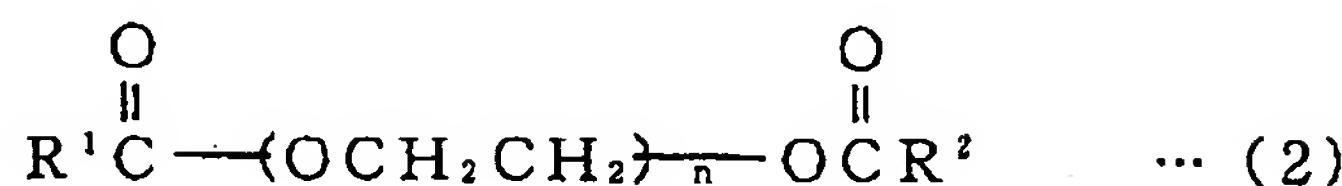
(R', R² = CO基と共にイソステアロイル基またはオレオイル基を表す。n = 6 ~ 16) で表されるポリエチレングリコールモノ(ジ)エステルを5.0 ~ 20.0重量%と、液状油分を2.0 ~ 15.0重量%配合する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 下記一般式(1)または(2) :



*【化1】



(式中、 R^1 および R^2 は同一もしくは異なり、それぞれCO基と共にイソステアロイル基またはオレオイル基を表し、nは6~16の整数を表す。)で表されるポリエチレングリコールモノエステルおよび/またはポリエチレングリコールジエステルを5.0~20.0重量%と、液状油分を2.0~15.0重量%配合したことを特徴とする2相系の洗顔料組成物。

【請求項2】 液状油分が、シリコーン油と炭化水素系油分とを含むものである請求項1記載の洗顔料組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は新規な洗顔料組成物に関し、更に詳細には、口紅、ファンデーション、マスカラ、アイシャドウ等のメーキャップ化粧料落としと、皮膚上の汚れや皮脂の洗浄を目的とする素肌洗いとを一段階で行うことができる2相系の洗顔料組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、口紅、ファンデーション、マスカラ、アイシャドウなどのメーキャップ化粧料を落とす場合、まず、第一段階としてメイクアップ化粧料となじみやすい溶媒的な油分を多量に含んだクレンジングクリーム、クレンジングオイル、クレンジングミルク、クレンジングジェル等の洗顔化粧料を用いた後、第二段階として、用いたメーキャップ落とし用の洗浄料(クレンジングクリーム、クレンジングオイル、クレンジングミルク、クレンジングジェル等)の残存油分や毛穴に入っている皮脂を、水溶性の石けんやクレンジングフォームの素肌洗い用洗顔料を用いて、皮膚上の皮脂、汚れと共に洗い流し、すっきり感あるいはさっぱり感といった満足感を得ていた。このように、二段階の洗浄を必要とするのは、油分類を多量に含有する化粧落とし用のクリーム類を用いた後、直ちに水又はぬるま湯ですすいでも皮膚上に残った油分が充分除去できず、さっぱりした洗浄感が得られないためであり、また、石けん、クレンジングフォームなどの洗顔料のみを用いた洗浄方法では、皮膚上に存在する油分に覆われたメーキャップ化粧料類を充

分に除去できないためである。

【0003】 しかしながら、化粧行為の迅速性、簡便性が要求されつつある近年、それに応えうる製品が求められている市場では、一回の操作のみでメーキャップ落とし効果と、すっきり感、さっぱり感という素肌洗い効果とを併せ持つ皮膚洗浄料が望まれており、このような一段階用の皮膚洗浄料としては、例えば特開昭63-122618号公報に開示されているように、特定のポリオキシエチレングリセリン脂肪酸エステルとポリオキシアルキレン変性ポリシロキサンとを含有する透明洗浄剤組成物が知られている。また、特開平4-5213号公報には特定のHLBをもったノニオン界面活性剤の組み合わせと、油分、水酸基を有する水溶性化合物を含有する1相型のクレンジング用組成物が開示されている。また、特開平7-215842号公報には、ノニオン界面活性剤を含み、特定の雲点をもった界面活性剤相を有する2相系の洗顔料組成物が開示されている。

【0004】

30 【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、最近開発された耐汗性、耐水性に優れた化粧持ち効果のある口紅、ファンデーション、マスカラ、アイシャドウなどのいわゆるハードメーキャップ化粧料は、含有油脂分が多くなり、被膜剤を配合しており、前項で示した特許公報の実施例をも含め、今までに報告されている一段階用の洗顔料組成物では、マーク落ち、マークなじみといった洗浄効果および使用後のなめらかさ、さっぱり感といった使用感のすべてを満足させるものではなかった。

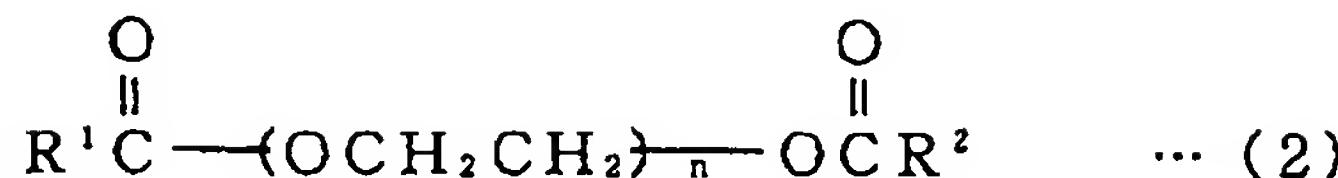
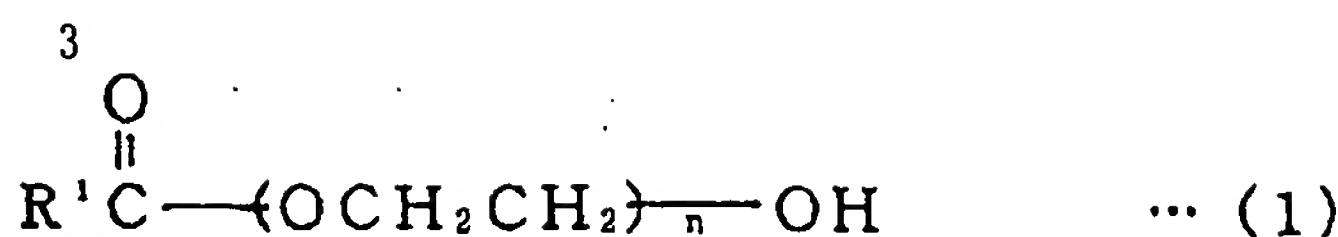
【0005】 本発明者等は係る問題点を解決するために銳意研究を重ねた結果、特定の活性剤と特定の油分とを特定量組み合わせた組成物を用いた場合に非常に優れた効果を示すことを見い出し、本発明を完成した。

【0006】

【課題を解決するための手段】 すなわち本発明は、下記一般式(1)または(2) :

【0007】

【化2】



【0008】(式中、R¹およびR²は同一もしくは異なり、それぞれCO基と共にイソステアロイル基またはオレオイル基を表し、nは6～16の整数を表す。)で表されるポリエチレングリコールモノエステルおよび/またはポリエチレングリコールジエステルを5.0～20.0重量%と、液状油分を2.0～15.0重量%配合したことを特徴とする2相系の洗顔料組成物である。ここで、2相系とは、水-油系乳化物系を指す。

【0009】本発明の洗顔料組成物は、メーキャップ化粧料等の油分洗浄効果を有し、かつ水で洗い流すことができ、マーク落ちやマークなじみがよく、使用後の肌のなめらかさやつっぱり感がなく、使用感に優れたものである。

【0010】本発明の洗顔料組成物に用いられるポリエチレングリコールモノエステルおよび/またはポリエチレングリコールジエステルは、常温で液状であって製剤安定性に優れていると共に、油性メーキャップとなじみが良く、水洗いの場合も自己乳化し水洗性が良いため、皮膚上から汚れやメーキャップ化粧料を洗い流し易く、使用後はすっきり、さっぱりし、一段階用洗浄活性剤として最適である。

【0011】エチレンオキサイドの付加モル数は6～16、好ましくは、8～14である。エチレンオキシドの付加モル数が6未満の場合、親油性が強く、油性メイクアップとのなじみは良いが、水洗いが十分でなく、素肌洗い効果が弱い。また、経時安定性もよくない。エチレンオキシドの付加モル数が16を超えると、油性のメイクアップとなじみが良くなく、洗浄対象物が皮膚上に残ったままで、メイク落とし効果が不十分である。また、エステル基がイソステアリル基またはオレイル基以外では、マーク落とし効果やマークなじみが悪くなる。

【0012】配合にあたっては、上記化合物を単独あるいは組み合わせて用いる。配合量は、洗顔料組成物全量に対して5.0～20.0重量%である。5.0重量%より少ないと洗浄力が不十分であり、20.0重量%を超えてより一層の効果が望めず、経済的に不利であると共に、安全性の点でも好ましくない。

【0013】本発明の洗顔料組成物には、さらに液状油分が用いられる。かかる液状油分としては、例えば、ポリジメチルシロキサン等のシリコーン油；流動パラフィン、スクワラン等の炭化水素油やエチルヘキサン酸セチ

10 ル等の炭化水素系油分が挙げられる。

【0014】本発明においては、液状油分として、シリコーン油と炭化水素系油分とをいずれも含む場合に、特に洗い上がりのなめらかさの点で優れた洗顔料組成物が得られる。

【0015】液状油分の配合量は、2.0～15.0重量%、好ましくは5.0～10.0重量%である。液状油分の配合量が2.0重量%未満ではマークなじみが悪く、15.0重量%を超えると洗い上がりにべたつきを感じる。

20 【0016】本発明の洗顔料組成物には、上記の必須構成成分の他に必要に応じ、一般的に洗浄料、化粧料等に配合される成分を本発明の効果を損なわない範囲で配合することができる。これらの成分としては、グリセリン、1,3-ブチレングリコール、プロピレングリコール等の多価アルコール類、固型または半固型油分、増粘剤、イオン性界面活性剤、薬効剤、保湿成分、抗炎症剤、殺菌剤、防腐剤、紫外線吸収剤、酸化防止剤、有機および無機粉体、色素、香料等を必要に応じて配合することができる。

30 【0017】本発明の洗顔料組成物は主としてメーキャップ化粧料の除去用の洗顔料として用いられるが、クレンジング用又はマッサージ用等に用いることもできる。

【0018】

【実施例】次に実施例をあげて本発明を説明するが、本発明はこれらの実施例に制限されるものではない。

【0019】実施例1～8、比較例1～5

表1～2中に記載の組成(重量%)にて下記方法で洗顔料組成物を調製し、そのマーク落とし効果および官能による使用感(マークなじみ、洗い上がりのなめらかさ、洗い上がりのつっぱり感、洗い上がりのべたつき感)を下記評価基準に基づき評価した。その結果を表1～2に併せて示す。

【0020】[製法]水に溶解しにくい水溶性増粘剤をあらかじめ溶解し、主釜に他の成分と一緒に添加し、高速ミキサーにて均一に溶解する。脱泡、濾過し、洗顔料組成物とする。

【0021】[評価方法および評価基準]

(1) メイク落とし効果試験法および評価法
油性ファンデーションにマーカーとして2-エチルヘキシルパラメトキシケイ皮酸を0.1%含ませたもの0.

| | | | | | | | | |
|----------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| メイク落とし効果 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | × | △ |
| メークなじみ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | × | △ |

【0030】

* * 【表2】

| | 実施例 | | | 比較例 | |
|----------------------|------|------|------|------|------|
| | 6 | 7 | 8 | 4 | 5 |
| ポリエチレンリコール(10)モノオレート | 10.0 | 10.0 | 10.0 | 10.0 | 10.0 |
| ジメチルポリシロキサン | 3.0 | 5.0 | 7.0 | 0.5 | 10.0 |
| スクワラン | 2.0 | 4.0 | 6.0 | 0.5 | 10.0 |
| ポリエチレングリコール1500 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 |
| グリセリン | 3.0 | 3.0 | 3.0 | 3.0 | 3.0 |
| 1,3-ブチレングリコール | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 |
| キサンタンガム | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.5 |
| メチルセルロース | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 |
| 精製水 | 残余 | 残余 | 残余 | 残余 | 残余 |
| メークなじみ | ○ | ○ | ○ | △ | ○ |
| 洗い上がりのなめらかさ | ○ | ○ | ○ | △ | △ |
| 洗い上がりのつっぱり感 | ○ | ○ | ○ | △ | ○ |
| 洗い上がりのべたつき感 | ○ | ○ | ○ | ○ | × |

【0031】表1において、比較例1および比較例2はエチレンオキサイドの付加モル数が6～16の範囲をはずれているため、メーク落とし効果やメークなじみが悪くなっている。また、比較例3は、エステル基がイソステアリル基またはオレイル基でないため、メーク落とし効果やメークなじみが悪くなっている。表2において、比較例4は、液状油分の配合量が2.0重量%未満である。

※るため、メークなじみが悪く、洗顔後のなめらかさに欠け、比較例5は、液状油分の配合量が15.0重量%を超えるため、洗顔後のべたつき感が生じてくる。それに対し、実施例1～8は、メーク落ちがよく、メークなじみや使用後の肌のなめらかさ、肌のつっぱり感のなさといった使用感にも優れたものとなっている。

【0032】

| 実施例9 | 重量% |
|--|------|
| (1) ポリエチレングリコール(12)ジイソステアレート | 7.0 |
| (2) ジメチルシロキサンメチル (ポリオキシエチレン60)シロキサン共重合体 | 4.0 |
| (3) ジメチルポリシロキサン | 5.0 |
| (4) 流動パラフィン | 2.0 |
| (5) グリセリン | 20.0 |
| (6) カルボキシビニルポリマー | 0.4 |
| (7) キサンタンガム | 0.2 |
| (8) 防腐剤 | 適量 |
| (9) 香料 | 適量 |
| (10) 精製水 | 残余 |

【0033】

| 実施例10 | 重量% |
|------------------------------|-----|
| (1) ポリエチレングリコール(8)ジイソステアレート | 1.0 |
| (2) ポリエチレングリコール(12)ジイソステアレート | 4.0 |
| (3) ジメチルポリシロキサン | 5.0 |
| (4) スクワラン | 5.0 |

| | |
|--------------------|------|
| (5) 1, 3-ブチレングリコール | 10.0 |
| (6) ヒドロキシエチルセルロース | 0.3 |
| (7) カルボキシビニルポリマー | 0.4 |
| (8) 防腐剤 | 適量 |
| (9) 香料 | 適量 |
| (10) 精製水 | 残余 |

【0034】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の洗顔料組成物は、一段階でハードメイクアップ化粧料の除去と、皮脂や汚れを毛穴の奥まですっきり落とせる素肌洗いと

10

を行うことができ、しかもマーク落ちがよく、マークなじみや使用後の肌のなめらかさ、肌のつっぱり感のなさといった使用感にも優れたものである。